

## 令和6年度第1回物部川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和6年10月24日（木）14:30～16:30

場所：香美農林合同庁舎 1階 大会議室

出席：委員20名中、17名が出席（代理出席4名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）物部川地域アクションプランについて

1）第4期物部川地域アクションプランの取り組みの総括について

2）第5期物部川地域アクションプランの進捗状況等について

（3）「共働き・共育て」の県民運動の推進について

（4）産業成長戦略について

観光振興の取り組み

議事（1）～（4）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）物部川地域アクションプランについて

1）第4期物部川地域アクションプランの取り組みの総括について

（No.8 シイラ等の水産物加工による外商の拡大）

（丸岡委員）

シイラが不漁でD評価となった。シイラが取れるということで始めた事業であるが、自然の大変さを感じる。将来を見据えると、養殖を考えなければならないのではないかと。

（中央漁業指導所 土居所長）

加工場では安定的に原魚を確保する必要がある。シイラの不漁対策として、養殖魚などの加工も行っている。香南市の手結地区でブリの外洋養殖を行っている。外洋での養殖はイレギュラーで一般的には須崎や宿毛の様な波の静かな内海で行うことが多い。県では、外洋養殖の適地がどの程度あるのか委託調査しており、今年度、その調査結果を基に県内外の一定規模以上の水産事業者が営業活動を行い、新たな外洋養殖の誘致に取り組んでいる。香南市にも適地があるので、新たな事業者の意向があれば、新規参入に向けて取り組んでいく。

（丸岡委員）

外洋養殖は台風などの影響で何回も失敗している。海水浴にしても安全に泳げる場所が県内に6カ所しかない。陸上で養殖を考えた方がいいのではないかと。

(中央漁業事務所 土居所長)

具体的に検討している訳ではないが、県でも陸上養殖の適地や適した魚種などについて勉強しているところ。

2) 第5期物部川地域アクションプランの進捗状況等について

(No.16 三宝山エリアにおける観光拠点化の推進)

(北委員)

三宝山エリアにおける観光拠点化事業は、どのような内容で、いつ頃オープンするのか。

(江口地域産業振興監)

現在、事業者が三宝山のお城がある場所を中心にホテルやウッドデッキの建設を検討している。ただ、ウッドデッキは斜面に張り出す形で、周囲にある県道の法面や県の土地を利用して造る計画となっている。県道への影響を避けるため、県の土木部と協議を進めている。

また、事業者からは、かつて遊園地があった頃の上水道のポンプ等を県から払い下げを受けたいという意向が示されている。まずは、県の土木部と協議し、払い下げを受けることで計画を具体化することが望ましいが、現時点で提出された資料では県道への影響が判断できず、協議が滞っており、具体的な時期が見通せない状況である。

(北委員)

まだはっきり分からないプランをこの中に入れて進めるのはどういった理由からか。

(江口地域産業振興監)

この案件は、三宝山を観光地として利用したいという意図で、約10年近くにわたり進められてきた。現在、事業者が購入し、計画を進めようとしている。県としても観光施設が整備されれば、多くの雇用が生み出されると期待しており、早期に進めるため地域アクションプランに位置づけている。

(北委員)

施設を山の上に造るにあたり、環境にどの程度配慮しているのか。県は十分な指導などを行っているのか。

(江口地域産業振興監)

何か造られたことにより、環境や他に影響が出るような計画は良くない。道路などの安全性も踏まえて、現在、土木部の方で話をしている状況と聞いている。

(平山座長)

これは、5期からのプランか。

(江口地域産業振興監)

4期以前からのプランである。まだ、基本計画が未完成で数値目標が入れられない。ただ、事業者もアクトファクトリーがオープンし、山頂部分に注力できるようになったため、私から土木部サイドに早めに結論を出してほしいと話をしているが、いつまでに出るかが見通せ

ない。

(小松(律)委員)

第5期の地域アクションプランに林業と水産業分野がないのは、農業や観光と違い、売上高や入込数などのように、目標を数字で表しにくいいためか。それとも他の理由か。

(江口地域産業振興監)

産業振興計画は、地域で取り組む内容と県下全域、例えば水産業の分野として、県が統一的に取り組む分野がある。水産業であればシイラや、林業も、全て県の大きな戦略の中で、物部川地域の林業や水産業も一体として進めるため、今回の地域アクションプランの中からは除いている。

(小松(律)委員)

第5期高知県産業振興計画のPR版パンフレットの27ページに林業分野の施策展開がある。その中で、林業にとって非常に厳しい、我々が理解できない施策が入っている。それが、全て県の戦略の中で一体的であるというのはどうかと思う。第5期地域アクションプランは農業分野、商工業分野及び観光分野となっているが、林業は非常に苦しい状況なので、その辺りも理解いただきたい。

(江口地域産業振興監)

林業に関しては、パンフレットの27、28ページが、県の林業の施策だが、これが分かりにくいということか。

(小松(律)委員)

分かりにくい訳ではない。このパンフレットに、森林資源の再生産の促進や、林業適地への集中投資がある。我々が一番問題にしているのは、この林業適地への集中投資。県の考え方では林業適地とは、木が植えられている所ではなく傾斜度と利便性によって適地を分けている。それにより、非常に事業エリアが狭まる。物部町の人工林面積が約12,000haあったが、その規制によって極端にいうと2,000haまで減る。そのような状況で50人も60人も生活することはできない。

この地域アクションプランの中に無くとも、県の戦略として考えているということから、敢えて、強くは言わないが、それぐらい林業は疲弊している。

そして、先ほど申し上げたように、売上高や入込数などといった数値がないため、地域アクションプランに載せられないのではないかと私は考えている。

(中央東林業事務所 岩原所長)

地域アクションプランは、個々のエリアの中で特色のあるものを進めていくもの。今回、林業を外したのは、県下一つとして進めていくため県下の計画に一本化したもの。林業をないがしろにしたというようなことではない。

林業適地については、あくまで林業適地として山の勾配が緩い所や、道から近いといった所を、まずは優先的にやる。また、林業適地以外を外すわけではなく、そこと一体的にやれる所であれば、その地域に応じて林業適地に入れることもできる。我々の説明不足があった

かもしれないが、外すというわけではない。

林業分野の予算も、いくらでもあるわけではないので、今回、より集中的に助成するため、林業適地という考え方で集中的に進めていく。そのエリアは、山が緩くて道が付いているところ、加えて一体的にできる所があれば入れられるので、また、個別にご相談をもらいたい。(小松(律)委員)

納得はいかないがやむを得ない。この場ではそういうことを言ってもいけないと考えている。冒頭で言ったように、農業分野、商工業分野及び観光分野の話なので、林業とそういう産業とは別の段階で話をしなければいけないということだと解釈した。

(平山座長)

県下全域の課題として対応していく考えで、決してやらないということではなく、物部川エリア特有の取り組みではなく、県下共通の課題として、対処していくということをご理解いただきたいと思う。

(No.4 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み)

(杉村委員)

3ページの「No.4 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取り組み」について、ぜひ聞いておきたい。この組織は、「ごめんケンカシャモ」を高知県のブランドにしていくために頑張ろうと意気込んだ8人でつくった組織であり、15年が経過している。

NHKの大河ドラマ「龍馬伝」放送時、龍馬とシャモは関係があり、爆発的に売れた。しかし、ブームは続かず、低迷して売り上げも伸び悩んだ。最近は飼い方や餌も工夫して肉質も安定している。しかし、ここ数年、非常に孵化率が悪く、飼育数が安定しない状態が継続している。天候のせいもあると思うが、夏場の非常に暑い環境の中で、鶏を飼育しなければならず、卵は産むが、孵化率が悪い状態が続いていた。

それについては、県の畜産試験場に相談し、まずは環境、それから餌や雄雌の比率などを工夫し、最近は少しずつ安定してきている。しかし、十分な数になっておらず、売り上げも今一つ伸びていない。

このシャモは、南国市に多く取り扱ってもらい、マスコットにもシャモ番長を取り上げてもらっている。どうしても、南国市の、そして県のブランドにしていきたいと、メンバー一同で頑張っているのだから、これからは県にはご指導をよろしくお願いする。

(平山座長)

杉村委員からのお願いということだが、もちろん、南国市で進めている取り組みなので、南国市としてもやめるわけにはいけないと思っており、県にも全面的にご支援をお願いしたい。

(江口地域産業振興監)

当然、市も補助金等での支援をしている取り組みであり、生産体制という部分では畜産試験場や家畜保健衛生所の支援や指導という形で昨年からの注力している。我々も本課と相談し、経営体制について経営アドバイザーをもう一回入れて様々なコスト部分を精査しながら、経

営をもう少し立て直した方が良さだろうという話もしている。今年度末にかけてどういうふうに取り組んでいくかは、またご相談したいと考えている。

(三谷委員)

私は、食品関係の事業に取り組んでいるが、昨今、規制が厳しくなり、個人でお漬物を作っても売れないなどの事例が発生している。新商品を開発したいという話や未経験の個人が、こういうものを作りたい、地元の食材を使ってジャムを作ってみたいなどの話を聞くが、個人で機材を揃えるのは難しいと思う。以前は、工業技術センターへ持ち込み、缶詰やレトルトパックにできたと思うが、現在、県の支援はどうなっているのか。持ち込んで作れる所は、実は高知県にほとんどなく、高知市内に何軒か共同作業所のような所がある。他にフランクフルト、ウインナー、乳製品や、乾燥品を作ってくれる所もあるが、あくまで、他の事業所へ持ち込み一緒に作ってもらうことになるので、コスト面や制限が色々かかってくる。

そのため、高知県内で起業する方、もしくは様々なものを作りたい方が製品を作れるような県がバックアップしてくれる施設があればよいと思った。香南、香美、南国だけではない部分だが、そうしたものはあるのか。

(江口地域産業振興監)

配付資料に、県の産業振興計画支援策活用ガイドがある。その中で紹介している工業技術センターは、例えば缶詰で何か作りたいなどの相談があれば応じる部署である。我々の所にも案件があれば積極的に相談してほしいと営業に来ている。我々にご相談もらえれば、まず工業技術センターに、お繋ぎすることができる。

また、民間企業との連携では、県庁の本課とも相談するが、例えば、どこか協力できる企業の紹介はできないか等を担当部署に相談しながら、つなぐことができるので、ご相談をもらえれば支援する。

地域資源を生かした市の名物作りをバックアップするお話になれば、地域アクションプランの中に取り入れて取り組みながら、徐々にステップアップする形も取れる。そういった種があれば、ご相談をいただきたい。

(三谷委員)

これから始めたい方は相談先が分からず、食材を扱うところの人間に聞くようになっており、自分たちからは工業技術センターに行くようにとしか言えなかったが、今後はご相談させていただくようにする。

(No. 1 日本一のニラ産地拡大による地域農業の活性化)

(No. 7 香南市中心市街地の振興)

(近藤委員)

2点質問がある。1点目は、「No. 1 日本一のニラ産地拡大による地域農業の活性化」について、新規就農のところに、個別巡回指導5戸とあり順調だと思うが、どれくらいの新規就農者数を目指しており、今どれくらいなのか、また、新規就農に対する課題等も見えていたら教えてほしい。

もう1点は、「No. 7 香南市中心市街地の振興」の空き店舗対策について、現在どのような業種の方がどれぐらいの規模で出店をしたいという相談が多いのか、教えてほしい。

(中央東農業振興センター 豊永所長)

ニラの新規就農について、最初からニラと決めて入ってくる方は、あまりおらず、いくつか見た上でニラを選ぶ。また、ニラの場合はハウスが必要。空きハウスを、県が全て紹介できるわけではなく、JAなどが、あらかじめ空きハウスを見つけて貸すこともある。

新規就農者が何名かと言うと、県全体で340名は必要と定め、毎年取り組んでいるが、作物ごとの目標設定はしていない。特に香美市だとユズ、香南市だとミカンをやりたいという方もおり、センターとしてもニラで目標が何人という掲げ方はしておらず、340名を県内5つのセンターで割って目標としている。

農業指導では、当センター普及課の普及指導員と、JAの指導員がペアで動いている。

また、県ではニラ部会と連携し新規就農から5年目までの方を対象にグリーンカレッジを行っている。そこで技術を伸ばすと共に、今後、農業を行うために必要なデータ利用にも取り組んでもらう。

そして一番のネックが、「そぐり」という作業。野市にそぐりセンターをシミズ・アグリプラスが作り「そぐり」を行っている。企業に持ち込むなら、どのようなニラでも良いと、歩留まりが悪かったが、それを、農家自身の所で一定調製して持ち込むようにしたことにより、昨年初めて、黒字化した。現在、「そぐり」作業を行う方はお年寄りが多いが、高齢で作業できなくなると、これから「そぐりセンター」の利用者数は、どんどん増えていくと考えている。

(江口地域産業振興監)

中心市街地の活性化の取り組みで、中心市街地での新規開業は、3市でそれぞれが取り組んでいる。チャレンジショップ制度は、香美市と南国市が実施しており、チャレンジショップには、香美市の場合、ネイルサロンとイベント関係、ケーキ屋が入居しているが、問題はそのあとの開業にある。南国市も同様だと思うが、中心市街地で物件を探すときに、割とよく聞くのが空き店舗が住宅兼店舗であり、2階にお住まいの中、1階を店舗としては使いづらいということもあり、なかなか適地がない状況である。

それでも、開業にこぎつけた案件もある。残念ながら、市外で開業した事例も聞いているが、できれば、市内で開業してもらいたいので、中心市街地でなくとも適地があれば、そこで開業してもらえよう取り組んでいる。

(近藤委員)

空き店舗の事情は承知している。今回、良い意味で驚いたのが、香南市の空き店舗紹介のサイトに、多くの物件が掲載されており、非常に良いと思った。一方で香美市のチャレンジショップに入っている方を見ても、やはり小規模でやりたい方が多い印象があるので、香南市が最近掲載しているところは、金額が高くて広いところが多いと感じた。それなら例えば小規模の方をつないで、一緒に入居するような話をサポートしたり、反対に、小規模ではなく企業に対して香南市への出店を呼びかける形もあるのではないかと感じた。

(No. 12 南国市の地域資源を活用した観光の推進)

(窪田委員)

連続テレビ小説「あんぱん」で実行委員会も立ち上がっているが、準備期間が短く、一市民として、どのようにチャンスを生かし盛り上げていくのかというのは非常に関心がある。様々なことを考えていると思うが、例えば土日に市役所の駐車場を解放する、何かイベントがある所にバスをつなげる、3市合同でスタンプラリーを開催し足を運んでもらうなど、考えてほしいと思う。

奥四万十博の時に、その場所へ行き写真を撮るというスタンプラリーがあり、なかなか行かない所まで行き写真を撮った。ただ観光地へ行くだけではなく、まだ埋もれている、通常行かない場所へ訪れてもらうことを目的にしている、非常に良い経験をした。多くの方に様々な場所に足を運んでもらう仕組みを考えてもらいたい。

(江口地域産業振興監)

最初にお話のあった駐車場対策について、かなりのお客さんが来る可能性があるので、各施設は市の協力も得て駐車場対策として、様々な場所を借り上げる。観光施設や、南国市内、あるいはアンパンマンミュージアム周辺なども駐車場対策を行っている。

香美市は、交通量を調査し、渋滞シミュレーションも実施予定であり、加えて、交通の便も検討中である。交通事業者とフリー切符のようなものがないか、あるいはゴールデンウィーク中や夏休み期間中に空港からアンパンマンミュージアムを含めて周遊するバスを運行するといったことも計画をしている。可能ならタクシープランを作りたいとも考えている。

スタンプラリーに関しては、個人的には少し多いと思うぐらいの数を計画している。3市の観光協会は、既に実施中のスタンプラリーが多くあり、これを機に取り組むものもある。例えば、高知市から物部川エリアに来てもらうものも、高知市の方で考えている。そうした中で、この周遊してもらう仕掛けは、非常に大事だと考えている。この3市で周遊してもらう仕組みを、今回の取り組みで確立していくことが一番重要で、将来的に残っていくと考えている。

(平山座長)

駐車場の話があったが、南国市の周遊では、市役所や海洋堂スペースファクトリー、併せて駅前に臨時駐車場も構えると、約170台停められる予定である。

(3) 「共働き・共育て」の県民運動の推進について

(北委員)

県を挙げて企業と一緒にこういった運動に取り組んでいくのは、非常に大事である。県庁の男性の育休取得率は、各年でどれくらい取得しているのか。平均はどれくらいなのか示した資料はあるのか。

(江口地域産業振興監)

担当課に確認し、皆さんに共有する。

(北委員)

高い数字が挙がっているが、女性の立場からいうと夫が1日休んでも何も意味がない。1

～2週間休んでも、母親が大変なだけで、あまり役に立たないだろうと考えている。

弊社の場合は、現在、6ヵ月間の育休を取得する計画を立てて休んでいる職員がいる。最初は4ヵ月間の希望が出てきたが、2ヵ月間追加したいと申し出があり、12月まで休む予定である。6ヵ月位関わると、子育てのサポートとして、役に立つと考えている。また、それくらい取得すると逆に企業の方も、社員の成長、スキルアップといった仕事に役立つことも多いと考えている。

県庁が、育休取得率を1日以上で出すのは、おかしいと思う。男性の家事・育児時間が長いほど第2子以降の出生率が高まると数字で出ているが、これが1日や1週間、2週間くらいでは、おそらく、全く効果がない。

育休取得率は、どれくらいの取得期間に対するパーセンテージなのかを出さなければ意味がない。県庁が、お手本になるのであれば、最低でも3ヵ月、やはり1年とか、そうした例をどんどん出してほしい。

そうしていくと、県内全体で取得する男性も増え、当然の事として取得するようになり、県内の人口増につながる。そのためには、資料に書かれているとおり、女性活躍がどうしても必要である。この会に参加して、女性委員が2分の1にはならないが、多くて良いと思う。しかしながら、県の担当には女性があまりいない。

やはり積極的に女性を管理職等に登用していくことが大事である。なぜかというと、女性が活躍できる場がないと、若い女性が県外に流れて行ってしまいうからである。さらに、日本でみてもこうしたことが進まず、働きがいといった面で満足できない優秀な女性がどんどん海外で働くようになってきている状況である。特に県が本気で取り組むのであれば、取得を3ヵ月、6ヵ月、1年と上げていくことが、将来的に県全体の人口増や多様性の社会で産業を活性化させていく原動力になると思う。

そのためには、県庁の上にいる方々が、ジェンダーバイアスを外すことが非常に重要だろうと考える。私ども製造業も、男性が多くて、なかなか外せないが、思いきってやってみると「いや、うまくいくよね」と、弊社も変わってきている。これを行政、企業のトップから始めるということなので、ぜひ、実際にお手本も見せ、それを県下に広げてほしいと思う。

2ページや3ページの数字も、どれくらい有効な日数を取得しているかが大きな問題だと思うので、このような数字を上げてはいけないのではないかと考えている。

(江口地域産業振興監)

ご意見は、本庁に上げていく。おそらく、取得率を1日以上としているのは、国の目標などの定義がそうなっているのだと思っている。

ただし、一定期間取らないと、効果が上がっていかないというご意見は、本庁に上げていく。

(4) 産業成長戦略について

観光振興の取り組みについて

(古川委員)

連続テレビ小説「あんぱん」を生かしてクルーズや台湾からのお客などへアピールしてい

るのか。

クルーズのお客は非常に特殊で、クルーズが好きで何回も行くので、何回も「高知に来たよ」という方が多いと思う。初めて高知へ来る方よりも2、3回目の方が高知市以外のエリアに目を向ける機会が非常に多いのではないかと思います。

連続テレビ小説は海外でも放送しており、「おしん」などが人気なので、国内だけでなく、クルーズの方や海外の方にもPRを強化した方が集客につながるのではないかと思います。

(観光政策課 竹崎課長補佐)

県では、国際観光課が海外、インバウンドの方々に対しての情報発信を行っている。アンパンマンも海外で人気と聞いており、やなせさんが今回連続テレビ小説「あんぱん」のモデルになっていることが、今後の県の取り組みに非常に追い風になる。効果も出てくると考えているので、その取り組みも考えていきたい。

(門脇委員)

南国市では「ハガキでごめんなさい」のイベントを開催しており、全国的に知名度も上がり年々盛り上がってきている。連続テレビ小説「あんぱん」は著作権や規制もあると思うが、「あんぱん」自体は、どこにでもあるものなので、全国あんぱん競技会など、そのような面白いイベントもあってもいいのではないかと。以前、ジビエのレシピを競い合うイベントがあった。全国の人の視線をこちらに向けるために、ドラマが終わっても続くイベントがあっても面白いと思う。パンづくりに興味がある女性は非常に多いと思うので、こういった機会を活用して打って出たいと思っている人もいるかも知れない。

(観光政策課 竹崎課長補佐)

連続テレビ小説「あんぱん」ということで、パンを絡めたイベントとして、地域のパン屋さんを回るようなイベントというアイデアも出ている。他にも、物部川 DMO 協議会では、最近、イベントに出展する際に、「あんぱん食べ競争」などをやりながら、お客さんを集めている。そういう面白い遊び心を持った企画も考えながら、県外からお客さんに高知に来てもらい高知好きになってもらって、もう1回来てもらえる形につなげていきたい。

(以上)